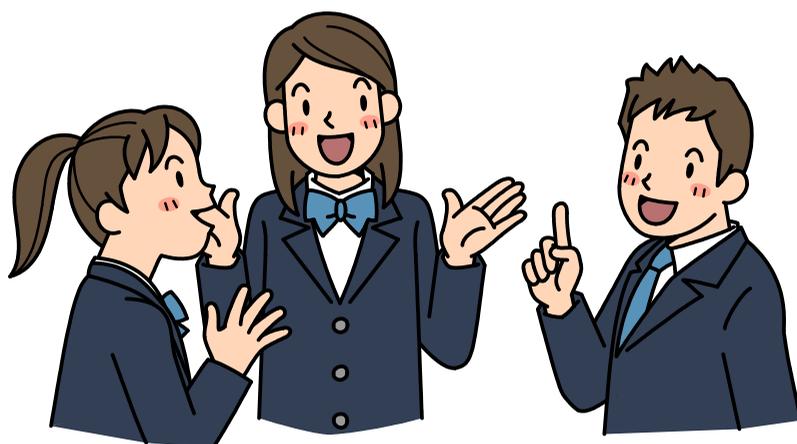


# 中学校学習指導要領解説Q&A 特別活動



教  
学  
一  
如  
女

教えることは 学ぶことである  
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

## 学習指導要領解説 Q & A について

平成29年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



### 1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

### 2 Q & A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが異なるのは、多くの量を煮ることができ調理の特性を理解できるようにするためです。

ここには、「答え (Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載しているので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

「教科等の目標や内容」、「主体的・対話的で深い学びの授業改善」等について、Q & A形式で分かりやすく解説しています。

### 3 活用法

日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等では是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

## 中学校特別活動 Q & A 目次

- Q1 特別活動で育成を目指す資質・能力とは、どのように捉え  
るとよいですか。 … 1
- Q2 特別活動の目標は、どのように設定されていますか。 … 3
- Q3 特別活動における「見方・考え方」について、どのように捉え  
るとよいですか。 … 4
- Q4 特別活動の目標と各活動・学校行事の目標は、どのように関  
連していますか。 … 5
- Q5 特別活動の内容は、どのように設定されていますか。 … 6
- Q6 学級活動の内容は、どのように設定されていますか。 … 7
- Q7 生徒会活動の内容は、どのように設定されていますか。 … 9
- Q8 学校行事の内容は、どのように設定されていますか。 … 10
- Q9 特別活動において「主体的・対話的で深い学び」の実現につ  
いて、どのように捉えるとよいですか。 … 11
- Q10 特別活動とキャリア形成との関連を、どのように捉えるとよい  
ですか。 … 12
- Q11 学級経営と特別活動との関連を、どのように捉えるとよいで  
すか。 … 14
- Q12 障害のある生徒への指導は、どのようにするとよいですか。 … 15
- Q13 生徒の自発的、自主的な活動は、どのように進めればよいの  
ですか。 … 16
- Q14 「ガイダンスとカウンセリングの趣旨を踏まえた指導を図る」こ  
とについて、どのような点に配慮が必要ですか。 … 17



# 中学校特別活動改訂のポイント

今回の改訂では、右の三つの視点を踏まえて、目標及び内容が整理され、各活動・学校行事で育成する資質・能力や資質・能力を育成する学習過程が明確化されています。

以下に改訂のポイントについて五つにまとめました。

三つの視点	人間関係形成	集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点
	社会参画	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点
	自己実現	集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点

## ポイント1 目標

下線部は、これまでの目標に示されてきた「望ましい集団活動を通して」という特別活動固有の指導原理を具体的に示したものであり、この基本的な考え方は、継承されています。

(1)は「知識及び技能」、(2)は「思考力、判断力、表現力等」、(3)は「学びに向かう力、人間性等」であり、学級活動、生徒会活動、学校行事のいずれも(1)～(3)の資質・能力を育成することが求められています。



### <中学校特別活動の目標>

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

### 「『集団や社会の形成者としての見方・考え方』を働かせる」とは

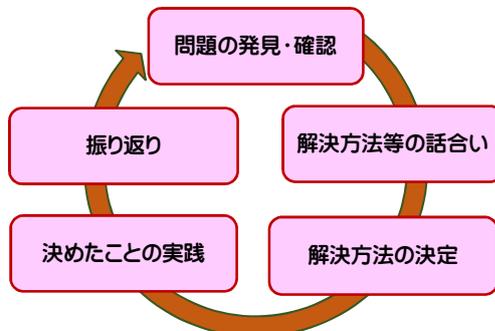
各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることです。

## ポイント2 学習過程

学級活動、生徒会活動、学校行事における学習過程例が示されるとともに、それぞれの項目においてもどのような過程を通して学ぶのが端的に示されています。決定することが目的ではなく、そこに至るまでのプロセスが大切です。

また、一連の活動を振り返って、成果や課題を確認し、次の課題解決へとつなげていくことが重要です。

### 学級活動における学習過程(例)



学級活動(1)の内容については、集団としての「合意形成」、学級活動(2)(3)の内容については、一人一人の「意思決定」を行うことが示されています。

(例) 学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決  
学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。



### ポイント3 各教科等との関連

特別活動の指導に当たっては、カリキュラム・マネジメントの観点に立ち、各教科、道徳科総合的な学習の時間などの指導との関連を図った資質・能力の育成が必要です。さらに、学級活動における自主的、実践的な活動が学級経営の充実やいじめの未然防止などを含めた生徒指導と大きく関わっています。

#### <各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などとの関連>

各教科との関連	道徳科との関連	総合的な学習の時間との関連
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科等で獲得した資質・能力などを実生活上の課題解決に活用することによって、資質・能力が確かなものとなります。</li> <li>○ 特別活動の充実が、学びに向かう主体的で協働的な集団づくりへとつながり、「主体的・対話的で深い学び」を支えることとなります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別活動で道徳性の育成に関わる体験を積極的に取り入れる必要があります。</li> <li>○ 特別活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践について道徳科で取り上げ、学級全体でその道徳的意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにすることが大切です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合的な学習の時間においても、各教科で身に付けた資質・能力を総合的に活用・発揮しながら、生徒が自ら現実の課題の解決に取り組むことを基本原理としています。</li> <li>○ 特別活動は、現実の問題そのものを改善することを目指しており、総合的な学習の時間は、物事の本質を問い続けていくことを目指しています。</li> </ul>

### ポイント4 主体的・対話的で深い学び

特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現は、各活動・学校行事の学習過程において授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の活動過程の中での質の高い学びを実現することにつながります。

それぞれの学習過程において、どのような資質・能力を育むことが必要なかを明確にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが必要です。

<b>主体的な学び</b>	学級や学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を見だし解決することが大切です。
<b>対話的な学び</b>	学級や学校における生活上の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げ、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要です。また、多様な他者との対話も重要です。
<b>深い学び</b>	一連の実践過程で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に働かせ、各教科で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用することが大切です。

### ポイント5 ガイダンスとカウンセリング

今回の改訂で、カウンセリングの趣旨を踏まえた指導が示されました。単にガイダンスやカウンセリングに多くの時間を費やせばよいというものではなく、ガイダンスやカウンセリングを生徒の行動や意識の変容を促し、一人一人の発達を促す働き掛けとしての両輪として捉えることが大切です。

ガイダンス	カウンセリング
<p>生徒の発達の特性や教育活動の特性を踏まえて、あらかじめ適切な時期・場面において、主に集団の場面で、必要とされる同質的な指導を全員に行うものです。</p> 	<p>個々の生徒が抱える課題に対して、その課題を受け止めながら、主に個別指導により、個々の生徒の必要度に応じて行うものであり、教師が日頃行う意図的な対話や言葉掛けのことです。</p> 

# 特別活動

(中学校)

**Q 1** 特別活動で育成を目指す資質・能力とは、どのように捉えるとよいですか。

**A 1** 生徒が互いのよさや可能性を発揮し、よりよく成長し合えるような集団活動を特別活動における「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら展開することを通して育むことが大切です。

特別活動では、育成を目指す資質・能力である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえて目標及び内容に整理されており、学級活動、生徒会活動、学校行事を通して育成する資質・能力を明確にしています。

この三つの視点が、育成することを目指す資質・能力に関わるものであると同時に、それらを育成する学習の過程においても重要な意味をもちます。

## ＜特別活動の特質を踏まえ、指導する上で重要な三つの視点＞

人間関係形成	<p>「集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成する」という視点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられます。</li><li>○ 年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切です。</li></ul>
社会参画	<p>「よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする」という視点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれます。</li><li>○ 学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成されます。学校内の様々な集団における活動に関わることで、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていきます。</li><li>○ 社会は、様々な集団で構成されていると捉えられることから、学級や学校の集団をよりよくするために参画することと、社会をよりよくするために参画することは、「社会参画」という意味で同じ視点として整理しています。</li></ul>

<p>自己実現</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>「集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする」視点</p> </div> <p>○ 自己実現のために必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で育まれます。</p>
-------------	--



ポイント!

### 1 「なすことによって学ぶ」とは

特別活動において育成する資質・能力で重要な方法原理です。したがって、特別活動における目指す資質・能力を育成する過程においても重要な意味をもちます。



### 2 三つの視点の関係について

「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点は、それぞれ重要ですが、相互に関わり合っていて、明確に区別されるものではないことに留意が必要です。

## 特別活動

(中学校)

**Q 2** 特別活動の目標は、どのように設定されていますか。

**A 2** 特別活動の目標は、三つの視点「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を手掛かりとしながら、資質・能力の三つの柱に沿って次のように設定されています。

- (1) 知識及び技能 (何を知っているか、何ができるか)
- (2) 思考力、判断力、表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)
- (3) 学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)

### <新旧学習指導要領における目標の比較>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、<u>①様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して</u>、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</li><li>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</li><li>(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</li></ol>	<p><u>②望ましい集団活動</u>を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p>



### 「望ましい集団活動」から「様々な集団活動」を通してに

下線部①は、資質・能力を育成するための学習の過程です。この学習の過程は、これまでの特別活動の目標で、下線部②「望ましい集団活動を通して」としてきたことを具体化したものです。

これまで特別活動の目標には、「望ましい集団活動」という用語が表記されてきました。しかし、「望ましい集団活動」という用語は、達成されるべき目標という印象を与えたり、最初から「望ましい集団活動」が存在するものであるかのような誤解を与えたりするという問題が指摘されていました。また、「望ましい集団活動」という用語では「連帯感」や「所属感」を大切にするあまり、ともすれば、教師の期待する生徒像や集団からはみ出しを許容しないことで、過度の同調圧力につながりかねないという懸念がありました。このような理由から、新学習指導要領では、下線部①のような集団活動として、資質・能力を育成するための学習の過程が具体的に示されたのです。

## 特別活動

(中学校)

**Q 3** 特別活動における「見方・考え方」について、どのように捉えるとよいですか。

**A 3** 特別活動の特質に応じた見方・考え方として、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることです。

学習指導要領解説特別活動編には、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることについて、次のように示されています。

学級や学校は、生徒にとって最も身近な社会である。生徒は学級や学校という社会での生活の中で、様々な集団活動を通して、多様な人間関係の築き方や、集団の発展に寄与すること、よりよい自分を追求することなどを学ぶことになる。生徒は、学年・学校段階が上がるにつれて人間関係や活動の範囲を広げ、特別活動で身に付けたこのような資質・能力と、教科等で学んだことを、地域・社会などその後の様々な集団や人間関係の中で生かしていく。

こうした学習の過程においては、特別活動ならではの「見方・考え方」を働かせることが重要である。今回の改訂で各教科等の目標に位置付けられた「見方・考え方」は、各教科等の特質に応じた、各教科ならではの物事を捉える視点や考え方であり、各教科等を学ぶ意義の中核をなすものである。特別活動の特質が、課題を見だし解決に向けて取り組むという実践的な学習であるということや、各教科等で学んだことを実際の生活において総合的に活用して実践するというところから考え、特別活動の特質に応じた見方・考え方は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」として示した。

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。こうした「見方・考え方」は特別活動の中で働くだけでなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをする。



ポイント！

### 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせる

- 特別活動と各教科等とは密接な関係があることから、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」は各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を自分のこととして捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けることです。
- 解説文中にある「各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら」という表現は、「各教科等の見方・考え方を実践的に働かせる」という意味で捉えることもできます。

## 特別活動

(中学校)

**Q 4** 特別活動の目標と各活動・学校行事の目標は、どのように関連していますか。

**A 4** 各活動・学校行事の目標は、集団の特質や活動の過程の特徴を踏まえた活動を通して、特別活動の目標に示す資質・能力を育てるものであることを示しています。  
また、それぞれ別個のものではなく、各活動及び学校行事の特色に応じつつ特別活動全体の目標の実現に向けていくものであるため、各活動・学校行事の目標が目指す資質・能力は、三つの柱で示されていません。

特別活動は、各活動・学校行事で構成されており、それぞれ独自の目標と内容をもつ教育活動です。しかし、それらは決して別々に異なる目標を達成するものではなく、構成や規模、活動の形態などが異なる集団活動を通して、特別活動で育成すべき「資質・能力」を身に付けることを目指して行うものなのです。

### <各活動・学校行事の目標>

#### (学級活動の目標)

①学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、②学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標（特別活動の目標）に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

#### (生徒会活動の目標)

異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標（特別活動の目標）に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

#### (学校行事の目標)

全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標（特別活動の目標）に掲げる資質・能力を育成することを目指す。



ポイント！

### 学習活動

下線部①は、学級活動の内容「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」、下線部②は、学級活動の内容「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、(3)一人一人のキャリア教育形成と自己実現」における一連の活動を示しています。

## 特別活動

(中学校)

**Q 5** 特別活動の内容は、どのように設定されたのですか。

- A 5**
- 様々な集団での活動を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を重視するために、学校や学級の課題を見だし、よりよく解決し、話し合っ合意形成し実践することや、主体的に組織をつくり、役割分担して協力し合うことを重要し、内容を設定しました。
  - 小学校から高等学校等までの教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を考え、小・中・高等学校等間のつながりが明確になるよう設定されました。



### 1 内容構成について

特別活動が学級活動、生徒会活動及び学校行事から構成されるという大枠の構成に変化はありません。(詳しい説明は、学級活動→Q 6, 生徒会活動→Q 7, 学校行事→Q 8を参照)

なお、小・中・高等学校を通して育成することを目指す資質・能力の観点から、学級活動の内容構成については、系統性が明確になるよう整理されました。これにより、学級活動の内容の構成の大枠は小・中学校の系統性が明らかになるよう整理され、それぞれの具体的な内容は、総則や各教科等の学習内容との関係も踏まえながら、各学校段階に応じたものとなりました。

### 2 学習過程の明記

従来は項目名だけが示されていましたが、それぞれの項目においてどのような過程を通して学ぶのか(学習過程)を端的に示しています。これは次のような理由からです。

学習指導要領第1章総則の第3の1の(1)において、資質・能力を偏りなく育成するために、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと、その際には各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ることを示しています。そのため、特別活動においても、具体的な学習過程が例示されました。

**Q 6** 学級活動の内容は、どのように設定されていますか。

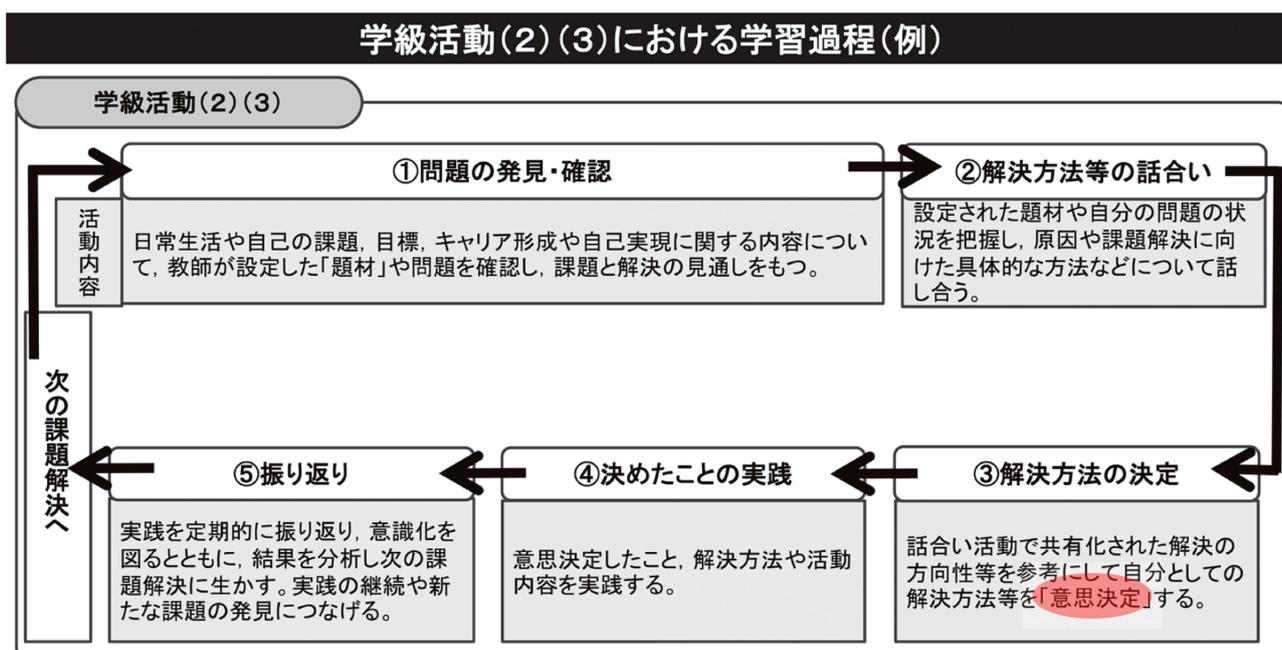
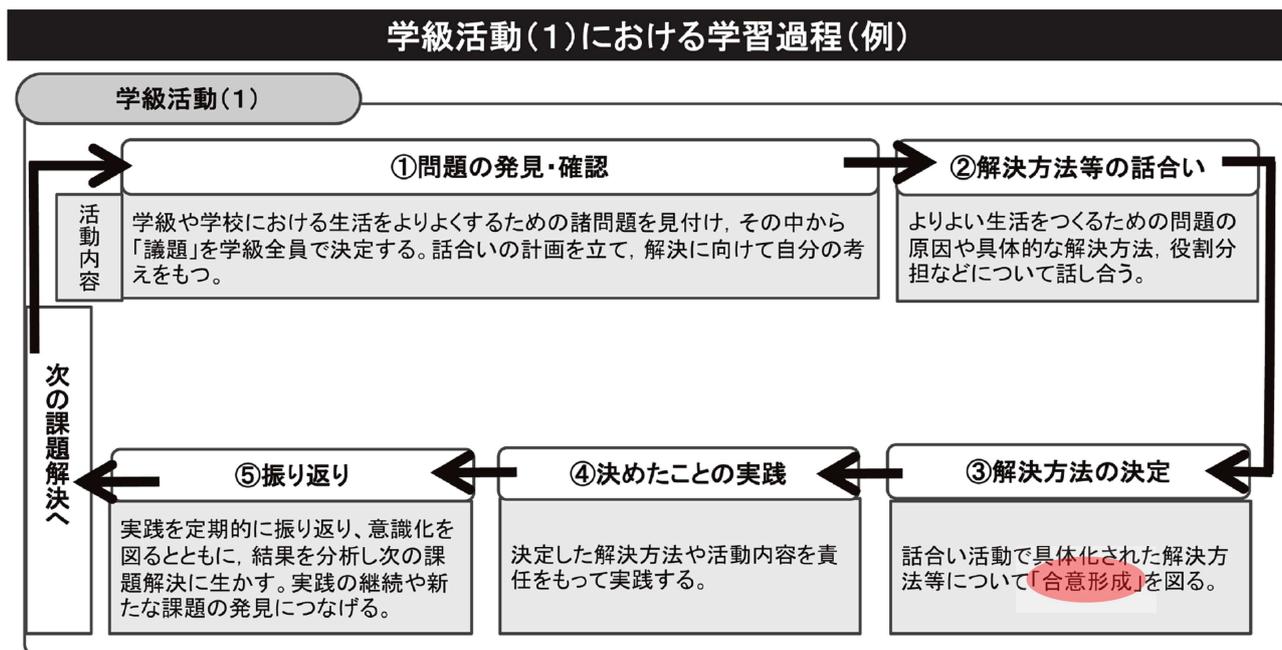
- A 6**
- 「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の指導の充実が図りつつ、(2)(3)の内容の各項目を関連付けながら、現行学習指導要領の17項目から11項目へ整理されました。
  - 学習の過程として、「(1)学級や学校の生活づくりへの参画」については、集団としての合意形成を、「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」については、一人一人の意思決定を図ることが、次のページの学習過程(例)のように示されました。

## ＜学級活動の内容＞

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
  - ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決  
学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。
  - イ 学級内の組織づくりや役割の自覚  
学級生活の充実や向上のため、生徒が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上  
生徒会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、学級としての提案や取組を話し合って決めること。
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
  - ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成  
自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を發揮しながらよりよい集団生活をつくること。
  - イ 男女相互の理解と協力  
男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。
  - ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応  
心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする。
  - エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成  
節度ある生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。
  - オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成  
給食の時間を中心としながら、成長や健康管理を意識するなど、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること。
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
  - ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用  
現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること。
  - イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成  
社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。
  - ウ 主体的な進路の選択と将来設計  
目標をもって、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること。

年間35時間で17項目の内容を取り扱うことが難しい状況があったため、11項目にまとめられました。その結果、1つの項目で取り上げられる内容が増え、授業で取り上げる内容選択の幅が広がりました。

## ＜学級活動における学習過程（例）＞



### 「合意形成」を図る活動についての留意点

- ① 課題に対して、一人一人が自分なりの意見や意思をもった上で、合意形成に向けた話し合いに臨むようにすること
- ② 合意形成に基づき実践するに当たって、自分自身に何ができるか、何を行うべきかということを主体的に考えて、意思をもつこと

## 特別活動

(中学校)

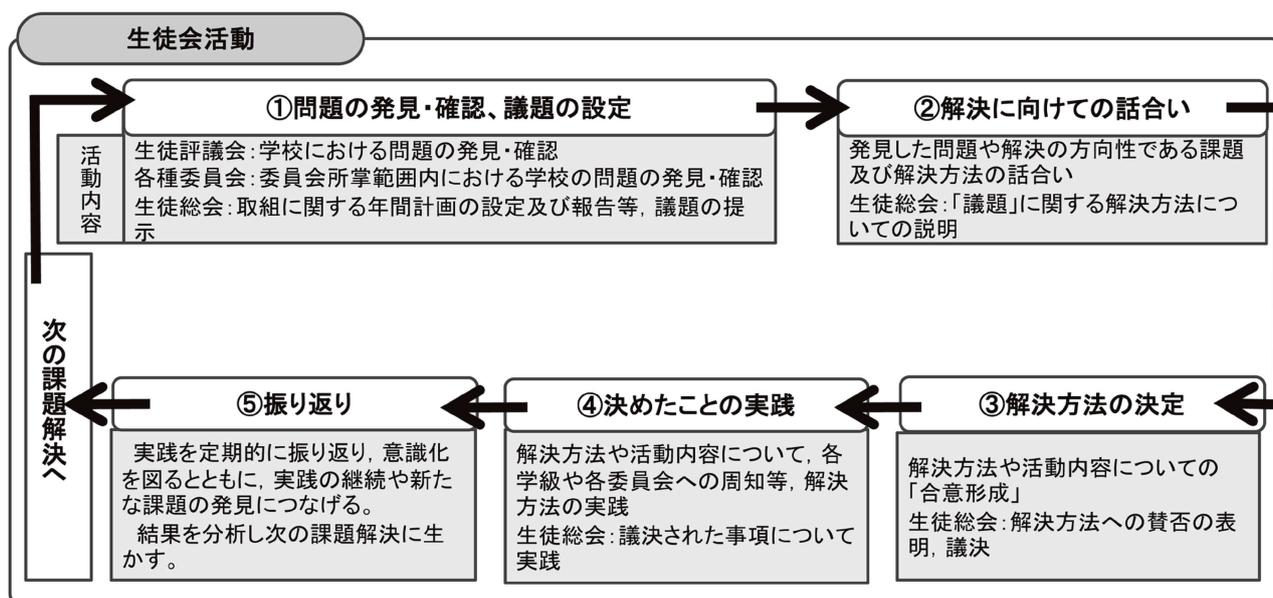
**Q 7** 生徒会活動の内容は、どのように設定されていますか。

- A 7**
- 内容の「(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営」として、**生徒が主体的に組織をつくること**が明示されました。
  - ボランティア活動等の**社会参画を重視すること**とされました。

### <生徒会活動の内容>

- (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営  
生徒が**主体的に組織をつくり**、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。
- (2) 学校行事への協力  
学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること。
- (3) ボランティア活動などの社会参画  
地域や社会の課題を見いだし、具体的な対策を考え、実践し、**地域や社会に参画できるように**すること。

### 生徒会活動における学習過程(例)



ポイント!

#### 1 「生徒が主体的に組織をつくること」について

主権者教育の観点から、生徒会役員選挙等では、選挙管理規則の周知、立候補に関する事務処理、選挙活動、立会演説会、投開票等に必要時間を適切に充てる工夫をするなど、生徒の自発的、自治的な活動を効果的に展開できるようにする必要があります。

#### 2 「社会参画を重視すること」について

生徒会活動としては、まずは学校における生活をよりよくする活動を行うことが基本ですが、中学生の発達段階から、生徒の関心が学校外の事象に向けられることは望ましいことであり、学校外への活動を通して生徒の自己有用感の醸成や学習意欲の向上が期待でき、生徒会活動がより充実したものとなることにもつながります。

# 特別活動

(中学校)

**Q 8** 学校行事の内容は、どのように設定されていますか。

**A 8** 学校行事の内容は、次のように設定されています。

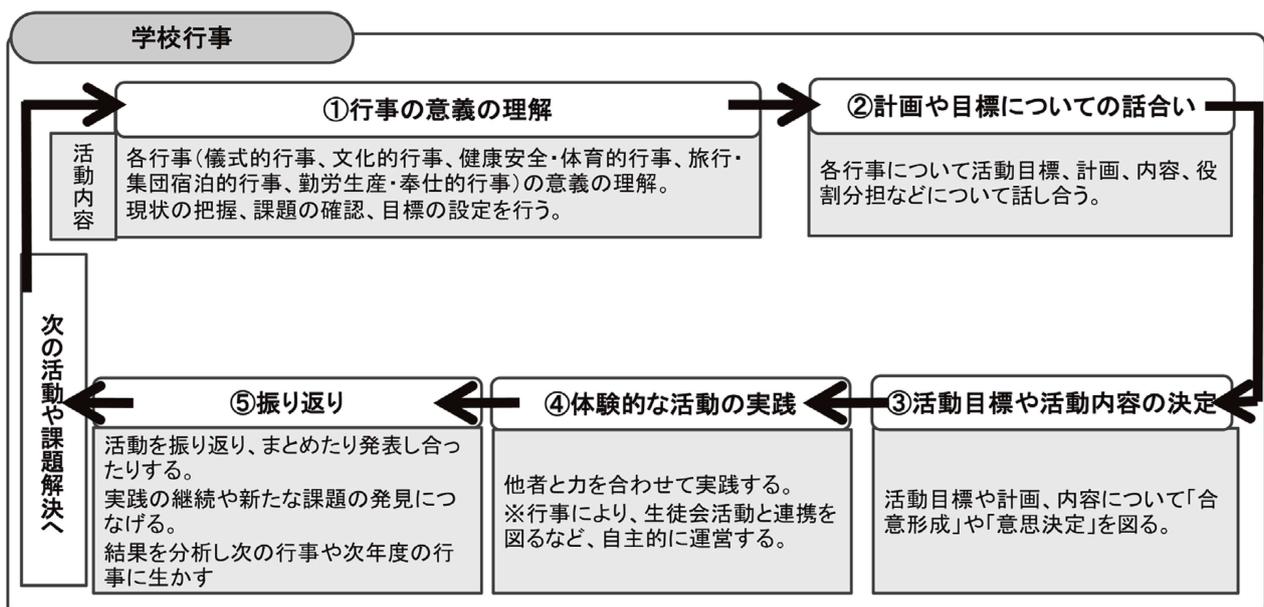
- 職場体験等の体験活動が引き続き重視されています。
- 健康安全・体育的行事の中で、事件や事故、災害から身を守ることについて明示されました。

## ＜学校行事の内容＞

- (1) 儀式的行事  
学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。
- (2) 文化的行事  
平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。
- (3) 健康安全・体育的行事  
心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。
- (4) 旅行・集団宿泊的行事  
平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。
- (5) 勤労生産・奉仕的行事  
勤労の尊さや生産の喜びを体得し職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得しボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

## ＜生徒会活動における学習過程（例）＞

### 学校行事における学習過程（例）



## 特別活動

(中学校)

**Q 9** 特別活動において「主体的・対話的で深い学び」の実現について、どのように捉えるとよいですか。

**A 9** 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現は、各活動・学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の活動過程の中での質の高い学びを実現することが大切です。

### <特別活動における「主体的・対話的で深い学び」>

「主体的な学び」 の実現	学ぶことに興味・関心をもち、学校生活に起因する諸課題の改善・解消やキャリア形成の方向性と自己との関連を明確にしながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返りながら改善・解消に励むなど、活動の意義を理解した取組である。
「対話的な学び」 の実現	生徒相互の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えたり話し合ったりすることを通して、自己の考え方を協働的に広げ深めていくことである。
「深い学び」 の実現	学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、新たな課題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、学んだことを深めることである。



ポイント！

### 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために

よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、生徒が「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視しています。

#### <「主体的な学び」の実現を図るために>

特別活動においては、学級や学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を見いだし解決できるようにすることが大切である。

#### <「対話的な学び」の実現を図るために>

学級活動や生徒会活動の自治的な活動においては、学級や学校における生活上の課題を見いだし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げ、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要である。

#### <「深い学び」の実現を図るために>

特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切である。特別活動において重視する「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点のいずれについても各教科等で育成する資質・能力と様々に関わっている。基本的な学習過程を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切である。

## 特別活動

(中学校)

**Q10** 特別活動とキャリア教育との関連を、どのように捉えるとよいですか。

**A10** 特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要であることが大切です。(総則に示されました。)

生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこととしています。

### <特別活動におけるキャリア教育>

- 学級活動（高等学校は、ホームルーム活動）「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」において、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校等のつながりが明確になりました。

「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容	
高等学校	<p>ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解 現在及び将来の生活や学習と自己実現とのつながりを考えたり、社会的・職業的自立の意義を意識したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。</p> <p>イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用 自主的に学習する場としての学校図書館等を活用し、自分にふさわしい学習方法や学習習慣を身に付けること。</p> <p>ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。</p> <p>エ 主体的な進路の選択と将来設計 適性やキャリア形成などを踏まえた教科・科目を選択することなどについて、目標をもって、在り方生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること。</p>
中学校	<p>ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること。</p> <p>イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。</p> <p>ウ 主体的な進路の選択と将来設計 目標をもって、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること。</p>

- ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成  
学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする事。
- イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解  
清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。
- ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用  
学ぶことの意義や現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。



**ポイント!**

**1 「キャリア教育の要」とは**

キャリア教育の要としての役割を担うこととは、キャリア教育が学校教育全体を通して行うものであるという前提のもと、これからの学びや自己の生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組を自己の将来や社会づくりにつなげていくための役割を果たすということです。

このことを踏まえ、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととしています。また、その際、生徒が見通しを立てたり振り返ったりするための教材等を活用することとしています。

**2 「キャリア形成」とは**

「キャリア形成」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための働きかけ、その連なりや積み重ねを意味します。これからの学びや生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなどして自らのキャリア形成を図ることは、これからの社会を生き抜いていく上で重要な課題となります。

- 生徒が、将来直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会的・職業的に自立していくためには、生徒一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして生きることについて考え、それらの結び付きを理解していくことで、多様な他者と協働しながら、自分なりの人生をつくっていく力を育むことが必要です。
- 活動の過程を記述し振り返ることができる教材等の作成とその活用を通して、生徒自身が自分の成長や変容を把握し、主体的な学びの実現や今後の生活の改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりする活動が求められます。

## 特別活動

(中学校)

**Q11** 学級経営と特別活動との関連を、どのように捉えるとよいですか。

**A11** 学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の生徒についての理解を深め、教師と生徒、生徒相互の信頼関係を育み、**学級経営の充実を図ることが大切です。**

その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにととされました。

これまで小学校学習指導要領の総則及び特別活動のみに記述されていた「学級経営の充実」が中学校学習指導要領の総則及び特別活動においても示されるようになりました。これは、学校での学習や生活において、その基盤となる学級としての集団の役割が、生徒の今日的な様々な状況から、一層認識されてきたためです。



**ポイント!**

### 1 「学級経営」とは

学級担任が学校の教育目標や学級の実態を踏まえて作成した学級経営の目標・方針に即して、必要な諸条件の整備を行い運営・展開されるものです。

### 2 学級経営の充実を図るための留意点

- 学級経営の充実については、学習指導要領第1章総則第4の1の(1)で「学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。」と示されています。
- 学級経営の充実は、生徒理解に基づく教師と生徒との信頼関係や、生徒同士の信頼関係が重要であり、学級活動における自発的、自治的な活動が重要な意味をもちます。このことから、学級活動における生徒の自治的な活動を中心として、学級経営の充実を意識することが求められます。
- 学級がよりよい生活集団や学習集団へと向上するためには、教師の意図的・計画的な指導とともに生徒の主体的な取組が不可欠です。学級経営は、特別活動を要として、計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成することにより、更なる深化が図られることとなります。
- 学級活動の目標の実現を目指し、各内容の特質を生かした指導を充実するには、教師個々の学級経営のみならず、学年の教師が互いに協力し合う学年経営の充実も不可欠です。学級経営と学年経営は相互に補完し合い、高め合っていく関係にあることから、教師が互いの役割や考えを尊重し協力し合うことが大切です。

## 特別活動

(中学校)

**Q12** 障害のある生徒への指導は、どのようにするとよいですか。

**A12** 個々の生徒によって、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、特別活動における配慮例を参考にしながら、個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが必要です。

障害者の権利に関する条約に掲げられたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、生徒の自立と社会参加を一層推進していくためには、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校において、生徒の十分な学びを確保し、一人一人の生徒の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく必要があります。

### <個々の生徒の困難さに応じた配慮例>

困難さ	特別活動における配慮例
相手の気持ちを察したり、理解することが苦手な場合	他者の心情等を理解しやすいように、役割を交代して相手の気持ちを考えたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えることや、イラスト等を活用して視覚的に表したりする指導を取り入れる。
話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合	発言するタイミングが理解できるように、事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。
学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする場合	見通しがもてるよう、各活動や学校行事のねらいや活動の内容、役割(得意なこと)の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の生徒に協力を依頼しておく。



**ポイント!**

### 障害のある生徒への指導の留意点

- 特別活動の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、生徒の学習面や心理面での負担にも配慮することが必要です。
- 学校においては、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、他教科等の担任と共有したり、翌年度の担任等に引き継いだりすることが必要です。

## 特別活動

(中学校)

**Q13** 生徒の自発的，自治的な活動は，どのように進めればよいですか。

**A13** 指導内容の特質に応じて，教師の適切な指導の下に，生徒の自発的，自治的な活動が効果的に展開されるようにします。その際，よりよい生活を築くために自分たちできまりをつくって守る活動などを充実するよう工夫することとしています。

### ＜「効果的に展開されるように」するために留意すること＞

指導例	留意点
生徒の自発的，自治的な活動を助長する指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒の主体的な活動場面をできるだけ多く取り入れる。</li><li>・ 合意形成のための話合いの充実や実践活動の場・機会と時間を確保する。</li><li>・ 評価や励ましを工夫する。</li></ul>
自発的，自治的な活動には，一定の制限や範囲があることについても生徒に理解させ，必要な場合には的確な助言や指示を行うなどの指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自治的と自治の違いや最終的な責任者は校長であることを理解させる。</li><li>・ 自分たちの可能性が生かされ，任されているという認識の下に，意欲的・積極的に参加できるような日常的な指導や日頃から教師と生徒のふれあいを深め，信頼関係を築く。</li></ul>
育成を目指す資質・能力を明確にした指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別活動で育成を目指す資質・能力のうち，主として何をを目指すのかについて，学級や生徒会活動の各種委員会活動等の質的な状況や発達段階，学級や生徒会活動の置かれている実態や解決を図らなければならない課題等から適切に判断し，それらに即した内容の焦点化・重点化を図り，生徒の活動を明確にする。</li></ul>
内容相互の関連を図った指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・ カリキュラム・マネジメントの視点に立ち，相互の関連を図る。</li></ul>

生徒の自発的，自治的な活動を特質としている内容は，学級活動の「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」及び生徒会活動です。

これに対して，学級活動の「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」と「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」及び学校行事は，教師の指導を中心とした生徒の自主的，実践的活動を特質とする内容です。これらの活動や学校行事は，学級や学校として実践することを，生徒が提案し，合意形成を図ることによって決める「自発的，自治的な活動」とは異なる学習過程となりますが，生徒の自主的，実践的な活動の助長には特に留意する必要があります。



### 「自分たちできまりをつくって守る活動」とは

生徒自らが，自分たちの話合い活動により適切なきまりをつくりそれを守る活動は，まさしく自発的，自治的な活動であり，自分たちで決定したことについて責任を果たす活動に他なりません。このように集団の合意形成に主体的に関わり，その決定を尊重するという活動を通して，生徒は集団の形成者としての自覚を高め，自主的，実践的な態度を身に付け，規範意識や社会性，社会的な実践力が育成されます。

## 特別活動

(中学校)

**Q14** 「ガイダンスとカウンセリングの趣旨を踏まえた指導を図る」ことについて、どのような点に配慮が必要ですか。

**A14** 学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などについては、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング（教育相談を含む）の双方の趣旨を踏まえて指導を行うことが必要です。

### <ガイダンスとカウンセリング>

ガイダンス	生徒のよりよい適応や成長，人間関係の形成，進路等の選択等に関わる，主に集団の場面で行われる案内や説明であり，ガイダンスの機能とは，そのような案内や説明等を基に，生徒一人一人の可能性を最大限に発揮できるような働き掛け，すなわち，ガイダンスの目的を達成するための指導を意味する。
カウンセリング	生徒一人一人の生き方や進路，学校生活に関する悩みや迷いなどを受け止め，自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり，適切な情報を提供したりしながら，生徒が自らの意志と責任で選択，決定することができるようにするための助言等を，個別に行う教育活動である。そのため，専門家に委ねることや面接や面談を特別活動の時間の中で行うことではなく，教師が日頃行う意図的な対話や言葉掛けのことである。



ポイント！

#### ガイダンスとカウンセリングの趣旨を踏まえた指導の留意点

- 特に入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活をできるように工夫することが大切です。あわせて、生徒の家庭との連絡を密にすることも必要となります。
- 生徒の発達を支えるためには、生徒の発達の特性や教育活動の特性を踏まえて、あらかじめ適切な時期・場面において、主に集団の場面で、必要とされる同質的な指導を、全員に行うガイダンスと、個々の生徒が抱える課題に対して、その課題を受け止めながら、主に個別指導により、個々の生徒の必要度に応じて行うカウンセリングを、それぞれ充実させていくという視点が必要です。
- ガイダンスとカウンセリングは、課題解決のための指導の両輪です。教師には、特別活動のいずれの内容においても双方の趣旨を踏まえて指導を行うことが求められます。これらの共通的な価値を有する教育活動を特別活動において、相互に関連して計画的に行うことに意義があります。

